

『戦争できる国づくり』許さない

世論の力で安倍「暴走政治」にレッドカードを

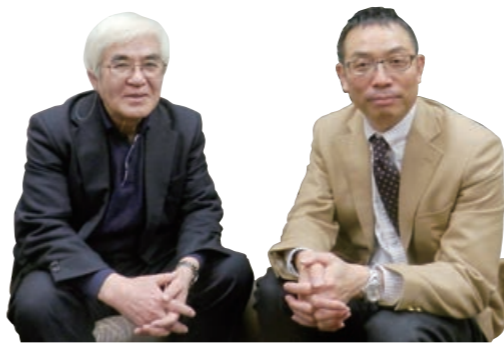


展示中の戦車に乗って迷彩服を着込んでポーズをとる安倍首相

昨年末の特定秘密保護法案の強行採決、靖国神社への参拝、沖縄・辺野古への新基地押しつけなど、安倍政権の右翼的な姿勢がどんどんエスカレートしてきています。

自衛隊が米軍と一緒に戦争することが現実

岩根 「2014年の政治や経済の行方を分析してほしい」と、編集部から私に依頼がありました。そこで神戸大学名誉教授で吹田自治都市研究所所長の二宮さんをお招きし、安倍内閣をはじめ、昨年末から新年にかけてこの間の情勢について伺うこととなりました。二宮先生は、現



神戸大学名誉教授 二宮 厚美さん
吹田自治都市研究所 研究員 岩根 良さん

時点での安倍内閣をどうご覧に なっていますか？

二宮 安倍首相は以前から「戦後レジームからの脱却」、つまり平和憲法、特に9条を改悪して「戦争できる国づくり」をめざしてきました。元々右翼的な思想の持ち主でしたが、昨年末の特定秘密保護法案の強行採決や、靖国神社への参拝、沖縄・辺野古への新基地押しつけなど、その右翼的な姿勢がどんどんエスカレートしてすでに「レッドカード状態」、つまり一発退場を求める時が来ていると思います。

岩根 確かに安倍内閣の発足時に比べて、暴走がスピードアップしてきましたね。
二宮 昨年の参議院選挙で「衆参のねじれ」が解消するまでは、まだ安倍首

相も様子を見ていたのです。しかし「ねじれ」が解消したら、一気に秘密保護法、集団的自衛権の行使などが出てくる。今では自民党の議員ですら、「甚では、安倍内閣は戦争態勢に入った」と言われるが、そうではないですよ」という国会質問が出るほどです。彼がよく口にす

る「積極的平和主義」。これは全くのペテンで、平和主義でもなんでもない。憲法の解釈を変えて米国と一緒に戦争をするつもりでしょう？ そんな「平和主義」があるわけがない。
岩根 確かに「積極的平和主義」と言えば聞こえはいいですが、実際にやっていることは、防衛費を引き上げて自衛隊の増強を図ったり、武器輸出3原則を緩和して武器を輸出できるようにしたり、実際に南スーダンで自衛隊が韓国軍と銃弾のやり取りを行ったり、「平和主義」とは名ばかりの「戦争準備」ですか

ことですね。これは明らかに「専守防衛」という今までの方針から外れていくということになりますね。

憲法を変えなくても戦争ができる国へ

二宮 「憲法9条を変える」「米」と一緒に戦争する」と言えば、国民の反発を招くので、「集団的自衛権の行使」という「解釈」で、憲法を変えなくても戦争ができますよ、というのが今の安倍内閣です。この問題では、安倍首相自身がかなり前のめりになっていて、「憲法解釈に関する最高責任者は私だ」と言い放ちました。我が国は立憲主義ですから、首相や国会議員の方が憲法に縛られているのです。それを無視して「最高権力者は私」などと発言すれば、世界から「日本は独裁国家になったのか」と疑われても仕方のない発言です。

財界からも懸念の声が出ています。例えば元伊藤忠商事社長

で前中国大使の丹羽宇一郎さんが、朝日新聞のインタビューに答えて「(集団的自衛権の行使は)スポーツ選手が自分の都合でルールを変えるようなもの。姑息な手段ではなく、正々堂々と国民に信を問うべき」とおっしゃっています。財界の中心人物でさえも「やり方が無茶苦茶だ」と批判しているのです。
岩根 安倍首相は、昨年4月、幕張メッセで行われたイベントで、展示中の陸自戦車に乗ってポーズをとっておられました。その写真を見て、「この方、本当に大丈夫なのかな？」と感じましたね。

二宮 自民党の圧倒的な議席数に気を良くしているのもあるでしょうが、例えば身内の自民党だけではなく、日本維新の会などのバックアップもある。国会の中で急速に「何を言ってもいいんだ」という雰囲気醸成されています。NHKの初井会長「慰安婦」発言などは、その典型です。

公共放送のトップとしては決して許されない発言ですが、安倍内閣は彼を罷免しません。会長があのような人物なら経営委員もそう。埼玉大学名誉教授の長谷川三千子氏は、新右翼の暴力テロを礼賛するような追悼文を發表していたし、作家の百田尚樹氏は、「南京大虐殺はなかった」と公言し、都知事選挙では田母神氏以外の候補者を「人間のクズ」と、口汚く非難しました。

武器と原発輸出で景気浮揚を図るアベノミクス

岩根 さすがに「やり過ぎだ」と批判が集中して、安倍内閣の支持率は下降気味ですが、国会の力関係は変

「積極的平和主義」

これは全くのペテンです

